

KLIS TODAY

No.
26

筑波大学 情報学群 知識情報・図書館学類

〒305-8550 つくば市春日 1-2 Tel 029-859-1110 Fax 029-859-1162
URL <http://klis.tsukuba.ac.jp/> E-mail klis-info@inf.tsukuba.ac.jp

大学説明会 ～知識情報・図書館学類の魅力を紹介～

春の説明会

春の進学説明会が平成 27 年 4 月 1 日（水）に東京キャンパス文京校舎で開催されました。情報学群全体の紹介、情報メディア創成学類の紹介に続いて、本学類の特徴や入試などに関する説明があり、さらに、学生から受験のアドバイスや入学後の生活の説明などがありました。

また、4 月 25 日（土）には、春日エリアにて 3 年次編入説明会が開催されました。学類長の挨拶の後、編入試験や卒業に必要な単位などについて担当教員が説明しました。そして、3 年次編入の先輩（学類生と進学した大学院生）から、受験を決めた動機や受験準備、編入後の感想など、実体験が語られました。参加者の皆さんから多くの質問をいただき、たいへん充実した説明会になりました。



3 年次編入説明会の様子

夏の説明会

8 月 8 日（土）に春日エリアにおいて知識情報・図書館学類の説明会が開催されます。学類長による教育課程と入試に関する説明の他に、教員による模擬講義やオープンラボ、学生によるパネルディスカッションとスチューデントトークが行われます。随時立ち寄れる、学生による相談コーナーもあります。また、図書館を含めた春日エリアの自由見学ができます。



新 1 年生を迎えて

吉田 右子

入学式からすでに二か月がたちました。みなさん新しい環境には慣れましたか。大学の授業を通してあるいは仲間との会話の中から、これまでに経験しなかったような考え方に触れて驚いたことはありませんでしたか。みなさんはサークル、クラス、学類といったさまざまなコミュニティに属していますが、そうしたグループを構成する一人一人が異なるバックグラウンドと考え方を持っています。多様性を認め合いながらコミュニティをつくっていくことはむずかしいことですが、自分自身が大切だと思うことを他の人に向かって自信を持ってはっきり伝え、他の人の語ることに耳を傾ける、大学はそうした異なる文化をやりとりする練習の場だと私は考えています。

まずは自分を語ることから……といっても、結構むずかしいですね。アメリカのシラキュース大学には、多様な文化的背景を持つ学生をサポートする Office of Multicultural Affairs という部署があるそうです。この部署の呼びかけで行われた “Who Are You? Postcard Project” では、学生が次々に自分を語ります (<https://www.youtube.com/watch?v=NGbrHPU1qH4>)。みなさんも 4 年間でぜひたくさんの自分を見つけてください。選択肢が多いほど自分を相対化できるようになり、それが他者を理解することにもつながると思うからです。

(よしだ・ゆうこ 知識情報・図書館学類 教授)

新 1 年生たちの声

たくさんの挑戦を

吉岡 優美

入学してから約二か月がたちました。初めは不安だった宿舍生活は非常に快適で、高校とは違う授業内容や、休み時間ごとの移動にも、迷わないで動けるようになりました。慣れてくると目につくのが、つくばの国際性です。噂に聞いていた通り、あちこちで外国の方の姿を見かけたり、外国語が耳に入ってきたりします。さらに、留学説明会も、さまざまな内容のものが開かれ、私の国際化を誘ってくるのです。説明会に参加すると、興味がぐんぐんと湧き、私は決意しました。「留学しよう!」と。

つくばはどこを見ても緑が多く、すがすがしい街で、朝から並木道を通して通学します。木漏れ日の中を自転車で走っていると、ワクワクした気持ちが膨らんでくるのは、私だけではないでしょう。様々な面でサポートが与えられている大学 4 年間、興味を惹かれたことすべてに挑戦する気概で、自分に与えられた機会と時間を存分に楽しもうと思います。



宿舍で（右から 2 番目が私）

(よしおか・ゆうみ 知識情報・図書館学類 1 年次)

見学研修とそれから

日下部 直樹

入学式から間もなく、私たちは見学研修に向かうバスに乗っていました。先生に促されて始まった自己紹介、各人のユーモア溢れるコメントに笑い拍手が飛び交うバスは和やかな雰囲気のまま、茨城県自然博物館へと向かっていました。周囲を森に囲まれた重厚で整った様相の建物。博物館の中は宇宙に関する展示から古代恐竜時代を再現した展示まで、多種多様な展示物が所狭しと並んでいました。

バスの中で知り合った友達と楽しく話しながら歩いていると、集合時間はすぐに来てしまいました。次にバスに乗って向かったのは千葉県立房総の村。必殺仕事人にいかにも出てきそうな古めかしい家々の中には、水戸黄門に出てきそうな茶屋もあり、そこでお茶ときんつばを談笑しながら食べました。



クラスの人々と（右から3番目が私）

あれから約二か月経ち、やどかり祭が終わりました。帰りのバスで立てた出店の計画は成功し、用意した材料を少しも残すことなく商品売り切ることができました。クラスで参加する初めての祭、忙しくも楽しいやどかり祭を終えて、私たちはまた一步、筑波大生に近づいた気がします。

（くさかべ・なおき 知識情報・図書館学類1年次）

憧れの大学生活

潘 秋実

まだ誰が誰だかもわからない状態でオリエンテーション、バスツアーを経て、4月は始まりました。子供時代をつくばで過ごした私は、その頃の記憶と今を照らし合わせながら驚きに満ちた毎日を過ごしています。当時中央図書館までの道を何も知らず幾度となく通いましたが、その中で大学の講義が行われていると今は知っています。当時バスを待つために入った春日エリアのキャンパスで、今は毎日授業を受けています。かつて行った博物館を大学の新しい友達とまわるのは格別の楽しさがありました。そういった経験は、記憶を塗り替えていくようでワクワクするものです。

大学ではクラスというものがないと聞いていましたが、ただ「みんなの必ず集まる教室」という場所がなくなって、皆ばらけてしまっただけです。やどかり祭の模擬店では、クラスの皆が交代で空いた時間に装飾やドリンクの試作に協力した結果、素晴らしいお店ができました。クラスのメンバーが集まれば、そこにクラスがあるのです。

今まで大学合格という目標を掲げて勉強してきたけれど、これからは自由に学ぶことができます。友達と図書館のセミナー室を借りて課題について議論を交わしながら、目指していた山頂に辿りついて新たな地平線を目にするような、新鮮な期待に胸を膨らませています。

（はん・しゅうしゅ 知識情報・図書館学類1年次）

よく遊び、よく学べ ～米国短期研修 2015 報告～

松林 麻実子

3 月半ばに学生たちと米国サンフランシスコに行ってきました。今年で 3 回目の企画で、訪問先はスタンフォード大学、カリフォルニア大学バークレー校、サンフランシスコ公共図書館、シティ・カレッジ・オブ・サンフランシスコ（CCSF）の 4 機関です。正式な授業でもないのにこの研修が 3 回目を迎えられたことに驚きを禁じ得ず、受け入れ義務があるわけでもないのに「またこの季節になりましたね」と毎年笑顔で対応してくださる訪問先のスタッフの方々に心から感謝しつつ、今年もまた、忙しくも楽しい 8 日間を過ごしてきました。

スタンフォード大学やカリフォルニア大学バークレー校の中央図書館で、静寂が空間を支配する荘厳な閲覧室と迷子になりそうな広大な書庫とを見て、“こんなところで研究したらはかどりそうだなあ”と夢想する私に、「静かすぎませんか？」と戸惑い気味の学生たち。少数の書架がまるでパーティションかのように配置され、ノートパソコンを片手に議論する学生のグループが席を埋め尽くす工学図書館を見て、一館すべてをラーニングコモンスにしてしまう徹底ぶりに圧倒されたり、逆に CCSF の学習支援センターで伺った「答えじゃなくて考え方を教えてあげることが大切なのよ」という言葉に、基本的な考え方は普遍なのだという思いを強くしたりもしました。

夕方以降は頭を切り替えて、米国の食文化を満喫。シーフードもハンバーガーも、パンケーキにアイスクリームだって。ダメ押しは最終日のステーキ（わかってはいたけれど米国のボリュームは容赦ない！）。観光だって手を抜きません。最終日は朝からケーブルカーに乗り、フィッシャーマンズワーフでアシカの大群を眺め、ダウンタウンのカートゥーンミュージアムで風刺画や人気コミックの展示を見てきました。

この研修の隠れスローガンは“よく遊び、よく学べ”。たとえ知識を持たずとも、たとえ英語が話せなくとも、勉強にも遊びにも全力で取り組んで、“世界は、広いけれど遠くはない”ことを肌で感じる事ができていたら、“（これから）もっと頑張ろう”と思えていたら、引率した者として、これに勝る喜びはありません。

（まつばやし・まみこ 知識情報・図書館学類 講師）



アビー・ロード（by The Beatles）！？

参加学生の声

伊川 真以

私は大学図書館のラーニングコモンズ、学習支援の現状や日本人のキャリア形成について等多くのことを学びました。特に図書館に就職することを考えている私にとって、海外で働く日本人ライブラリアンの方達との出会いは忘れられないものでした。3人の日本人ライブラリアンにお会いし、米国の図書館でのキャリアの積み方、日本人ライブラリアンの使命等を教わりました。3人の方達は自身の職務に誇りを持って勤務されており、意識の高さに驚かされてばかりいました。将来、海外へ視野を広げて活躍するという目標を見つけられたため、研修に参加させていただけたことにとても感謝しています。

(いかわ・まい 知識情報・図書館学類4年次)

大嶋 航平

この短期研修への参加のきっかけは何気ないものでした。掲示板でポスターを見つけ、三年生という将来の節目の一年を前に今までと違う新しいことをしようと思ったことを覚えています。研修中は本当に貴重な経験をさせていただきました。海外の街並み、人々、そして図書館とそこで働く司書の方々。どれも刺激的で自分にとってまさに「新しい」ことでしたが、ある意味で「見覚えのある光景」でもあると感じました。街も人も図書館も、ある環境にそれが在るという広い観点で見れば、海外と今自分がいる環境との間に特別な差はないということです。この研修を糧に、今いる環境に自信を持ち、自分の将来について深く考えていこうと思います。

(おおしま・こうへい 知識情報・図書館学類3年次)

田坂 友希

今回の米国短期研修では、これまでの人生では体験することができなかった多くの経験をすることができました。まず、米国におけるライブラリアンの地位の高さに驚きました。またサンフランシスコ公共図書館ではその規模の大きさはもちろんのこと、多文化・多民族に向けた充実したサービスを体感することができました。日本の大学・公共図書館との多くの違いを体感することで、私自身のこれからの学類での研究についてより深い知見を得ることができたのではないかと思います。今回の経験を活かし、これからの学習や研究をよりよいものにしていきたいです。

(たさか・ゆき 知識情報・図書館学類3年次)



ユニオンスクエアにて

新任教員紹介

小泉 公乃

皆さん、こんにちは。私はこの3月までピッツバーグ大学情報学研究科で客員研究員をしていました。図書館情報学が私の専門分野で、その中でもいま特に関心がある領域は、1) 図書館経営とサービス、2) パブリックガバナンス、3) 公共図書館と公共圏理論です。研究を通して、地域の中での図書館の意義や可能性を最大限に見出していければと思っています。知識情報・図書館学類は多様性に溢れており、皆さんと一緒に研究をしたり、学んだりできるのが今からとても楽しみです。

また、私はビジネス界での経験もありますので、就職活動などで悩むことがあれば、いつでもオフィスにいらしてください。もちろん、私と一緒に図書館について熱く語りたい人たちもウェルカムです。趣味は旅行、写真、映画鑑賞。好きな思想家はラルフ・ワルド・エマソン。座右の銘は、“Putting yourself out of comfort zone”。性格は真面目で、結婚式では「昭和30年代の青年」と紹介されました。



iConference2015にて（左が私）

（こいずみ・まさのり 知識情報・図書館学類 助教）

叶 少瑜

学生の皆さんにお目にかかれること、一緒に授業や研究ができることをとても楽しみにしています。私は中国の大学を卒業後、中国と日本で修士号を取得し、埼玉大学国際交流支援室、東京工業大学国際部の勤務を経て、この3月に東工大で博士号を取得しました。

今年は来日してから10年目になり、日本のこともよく知っているつもりです。母語は中国語（広東語と標準語）ですが、授業や論文執筆は日本語と英語で行います。韓国語も少しできます。

私の研究は主に異文化コミュニケーションの視点から、スマートフォンなどの使用が対人関係、特にユーザの社会的ネットワークの構築にどう影響を与えるのかに関するものです。こういった専門分野に興味関心のある学生の皆さんとディスカッションするのを楽しみにしています。

さらに、海外の大学に興味のある方、留学してみたい方、外国語を学ぶコツを知りたい方など、気楽に訪ねてきてください。お待ちしております。



フィンランドにて

（よう・しょうゆ 知識情報・図書館学類 助教）

サバティカル報告

カナダでサバティカルを過ごして

溝上 智恵子

2014 年度にサバティカルをいただき、6か月間、カナダ・バンクーバーにあるブリティッシュ・コロンビア大学（UBC）教育学部に客員教授として滞在しました。UBC は 1915 年に設立された比較的新しい大学ですが、現在は、学生数約6万人（うち大学院生1万人）、教員約5千人という、カナダ西部最大の研究大学へと成長した活気に満ちた大学です。

私は、カナダ滞在中、UBC、バンクーバーのカトリック教会の文書館やオタワにあるカナダ国立図書館・文書館等において、第2次世界大戦中に強制収容された日系カナダ人の学校教育に関する資料を収集するとともに、経験者へのインタビューを通じて、当時の高校教育支援の実態を明らかにする研究を行いました。この間、多くの方々のご厚意により貴重な話をうかがい、情報を提供していただきました。最後に、私の不在中、授業や管理業務を引き受けていただきました関係者に心から感謝申し上げます。



UBC のキャンパス

（みぞうえ・ちえこ 知識情報・図書館学類 教授）

フランスでのサバティカル

手塚 太郎

2014 年 4 月からサバティカルの機会を与えていただき、一年間、フランスで研究を行ってまいりました。滞在中は Institut de Recherche de l'Ecole Navale というフランス海軍の大学に附属する研究所です。研究所は海に面しており、周囲は自然も多く、とても良い環境でした。

研究者と博士課程の院生だけという緊張感に満ちた雰囲気の中で研究に専念することができました。仕事の後や週末に皆で連れ立ってサーフィンに行ったのは良い思い出です。また、滞在中、ヨーロッパ各地の研究所を訪ねることもでき、人脈が広がり、非常に有意義でした。

不在中に授業を代講してくださった先生方、委員会を担当していただいた先生方、研究室の学生の指導を行ってくださった先生方、また様々な形でサポートしてくださった先生方に感謝致します。



研究所前の海岸

（てづか・たろう 知識情報・図書館学類 准教授）

Academic Chat Club に参加して

関根 吉紀

私がこの会に参加したきっかけは、この会の facebook ページにあった「特に日本人学生たちに参加して欲しい」という文面を見たことでした。4 月に初めて参加し、次の 5 月にも参加して、よかった点は大きく 2 つあります。1 つ目は、参加者は留学生が多く、みなさん英語で話すので、やはり国際標準は英語であると実感できたこと、2 つ目は自己紹介した他には座って聞いていただけでしたが、会が終わった後の雑談では多少話すことができたことです。

去る者は追わず、来る者は拒まずの精神であると杉本先生もおっしゃっていましたし、月 1 回、1 時間半とほどよいペースであるので、安心して参加できます。私にとって Kasuga Academic Chat Club は、普段は話す機会のない英語が話せること、英語を勉強する動機となることに大きな意義がありました。このような会があることを嬉しく思い、先生や発表してくれた方に感謝したいと思います。

(せきね・よしき 知識情報・図書館学類 4 年次)

Meriem Tebourbi

筑波大学には色々な国から来た多くの留学生が在学しています。図書館情報メディア研究科にも多くの留学生がいます。Kasuga Academic Chat Club は、留学生と日本人学生の交流だけではなく、先生や事務との交流も目的として発足しました。月に一回、情報メディアユニオン 3 階に集まって、お茶を飲みながら英語で楽しくおしゃべりしています。毎回、1~2 本のプレゼンテーションがあります。研究成果等についての発表や留学生たちの国や文化の紹介を、フレンドリーでカジュアルな雰囲気の中でおこなっています。

これまで、インドネシア、ケニア、アイルランド、チュニジア、中国、アンゴラなどからの留学生が自国の紹介をしました。日本人学生から、関西とその文化の紹介もありました。先生方からは、現在取り組んでいる研究の紹介、事務の方からは、学類事務室や支援室のサービスについての発表もありました。私は自分の母国であるチュニジアについて発表しました。関心のある方は是非お越しください。

開催予定は <https://www.facebook.com/Kasuga.Chat> をご参照ください。

(テボーレビ・マリラム 図書館情報メディア研究科博士前期課程 1 年)



Kasuga Academic Chat Club の集い